

令和元年度
北秋田市総合戦略検証会議
事業評価シート

1. 地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業
2. 地域産品磨き上げ事業
3. 森吉山ウェルカムステーション事業

北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 検証シート

事業名	地域連携DMO形成事業	担当部課名
総合戦略基本目標	基本目標1 産業振興による仕事づくり 1-④ 観光・レクリエーションの振興	商工観光課観光振興係
交付金 種別	地方創生推進交付金	
事業目的 (一覧表F列)	平成29年11月に日本版DMO法人として登録された『一般社団法人秋田犬ツーリズム』を中心とし、市町村の枠を超えた連携を通じて稼げる観光地域づくりを進めている。プロモーションの中心に秋田犬を据えた取り組みを進めた結果、外国人旅行者が増加傾向にあることから、当地域の目的地としてのポテンシャルは高く、今後も外国人旅行者の増加による経済効果が十分に見込めることから、従来のターゲットである台湾へのアプローチは続けつつ、「秋田犬」という強力なキラーコンテンツを活用して世界中の動物好きへのアプローチを積極的に進め、来訪者、とりわけインバウンドの増加につなげる。	

事業費	総事業費(入力シートD列)	交付金実績額(入力シートE列)
	44,741,017円	21,381,413円
KPI	指標及び目標値(入力シートG列)	実績値(一覧表H列)
	旅行消費額40,236百万円 訪日外国人宿泊者数:15千人 延べ宿泊者数:385千人 観光振興事業が地域に与える経済的効果:0百万円 目標年月:H30年度末時点のもの	旅行消費額:21,355,348,807円 訪日外国人宿泊者数:9,960人 延べ宿泊者数:379,139人 観光振興事業が地域に与える経済的効果:-円

事業の概要(一覧表I列)	
<p>函館と仙台を結ぶ周遊ルートのひとつに当地域をしっかりと位置づけることを目的とし、そのためのキラーコンテンツとして「秋田犬」を据える。秋田犬の知名度を生かし、いまだ低い地域の認知度を高める取り組みや、地域のファンになっていただき、来訪意向を高める取り組みは事業期間全体を通じて行う。また、来訪者へのサービス向上を図るほか、秋田犬のブランド価値を高めるための取り組みや古民家活用による収益性確保にも新たに取り組む。</p>	

◆担当部署による自己分析(各項目5点満点、総計45点満点)

妥当性評価	13	有効性評価	13	効率性評価	11
市が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	4
市民のニーズは高いか	5	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	5	受益者負担は適当か	4

総合評価	今後の方向性	事業の取組状況と今後の対応方針について(入力シートJ列)
37	改善して継続	これまで進めてきた海外からの誘客のためのプロモーションを展開しつつ、コミュニケーション向上の研修会や、既存観光施設のブラッシュアップ等の受入態勢の整備に取組んでいる。 今後は、滞在時間の延長を目的としたアクティビティの開発や、二次交通の課題を解消し、世界中から選ばれる観光地を目指す。

----- 以下は検証会議で使用 -----

◆検証会議による客観的検証

妥当性評価		有効性評価		効率性評価	
市が関与すべき事業か		事業は効果的か		他に効率的な手法はないか	
市民のニーズは高いか		成果が期待できるか		コスト削減の余地はないか	
目的・対象は妥当か		政策目標の実現に貢献しているか		受益者負担は適当か	

【参考:評価基準】

総合評価	検証会議による評価	【検証会議 評価基準】
／45		A かなりの効果がある B 相当程度の効果がある C あまり効果が見られない D 効果が乏しく改善の必要ある



北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 検証シート

事業名	地域産品磨き上げ事業	担当部課名
総合戦略 基本目標	基本目標1 産業振興による仕事づくり 1-③ 商業の振興	商工観光課観光振興係
交付金 種別	地方創生推進交付金	
事業目的 (一覧表F列)	平成28年4月1日に大館市・北秋田市・小坂町の3市町が連携して一般社団法人秋田犬ツーリズム(地域連携DMO)を組織し、交流人口増加の取り組みを進めているところである。これに連動して地域産品の磨き上げや販売強化を図り、観光・物産が車の両輪のごとく一体的な取り組みを行うことにより、地域産業の振興、地域内事業者の起業や所得向上が図られる。 観光と物産を活用したビジネスモデルを確立するためには、宿泊・飲食・土産・体験の要素を有機的に連携させ、それらをうまく発信するとともに、事業者の取り組み意識を向上させることが重要となってくる。推進に当たっては、エリア内の物産情報を一元的に発信するとともに、観光業、商工業、農業分野などの異業種が一体となって事業に取り組む体制づくりが必要であり、多様な関係者との合意形成が可能な組織である秋田犬ツーリズムがその機能を担い、地域連携によるスケールメリットを生かしながら情報発信やマーケティング、6次産業化を進め、地域産業の振興、事業者の所得拡大を図る。	

事業費	総事業費(入力シートD列)	交付金実績額(入力シートE列)
	5,163,252円	2,474,439円
KPI	指標及び目標値(入力シートG列)	実績値(一覧表H列)
	枝豆加工品の販売額 131,122,800円 地域資源を活かした新商品の開発 6件 地域資源を活かした起案件数 1件 目標年月:H30年度末時点のもの	・枝豆加工品の販売額 :43,677,760円 ・地域資源を活かした新商品の開発 :2件 ・地域資源を活かした起案件数 :0件

事業の概要(一覧表I列)	
<p>マーケットインによる地域資源商品の磨き上げ、ブランド化、高付加価値化を進めるための関係者の合意形成とそれによる効果的な取り組みを行う。観光客の興味や満足度を高め、購買意欲を喚起するため、既存の土産品や食などについて、価値向上や新たな付加価値を創造する。それぞれの分野で活躍している外部専門家の知見を最大限に活用し、セミナー開催や商品開発ワークショップ、ブランド化への取り組みを行うほか、市場調査や見本市、レストランプロモーションでのテストマーケティングなど、商工団体や農業団体等が一体となり、「地域産業の総力戦」と位置付けて事業に取り組む。特に枝豆については、本事業による最重点食材として位置付け、国内外をターゲットに加工品の開発や付加価値向上による販路拡大と所得向上を図る。</p>	

◆担当部署による自己分析(各項目5点満点、総計45点満点)

妥当性評価	12	有効性評価	13	効率性評価	11
市が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	5	他に効率的な手法はないか	4
市民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	4

総合評価	今後の方向性	事業の取組状況と今後の対応方針について(入力シートJ列)
36	改善して継続	枝豆関連商品の販路拡大を中心に取り組みを進めており、(株)ギンビスと共に開発した「秋田の枝豆」は評判も良い。 今後は、「朝採れ枝豆」にこだわった販売展開を継続するとともに、枝豆以外の地域産品のメニュー開発やシェフツアーの開発等により価格向上と販路拡大を目指す。

----- 以下は検証会議で使用 -----

◆検証会議による客観的検証

妥当性評価		有効性評価		効率性評価	
市が関与すべき事業か		事業は効果的か		他に効率的な手法はないか	
市民のニーズは高いか		成果が期待できるか		コスト削減の余地はないか	
目的・対象は妥当か		政策目標の実現に貢献しているか		受益者負担は適当か	

【参考:評価基準】

総合評価	検証会議による評価	【検証会議 評価基準】
／45		A かなりの効果がある B 相当程度の効果がある C あまり効果が見られない D 効果が乏しく改善の必要ある

5	4	3	2	1
的り全 、く 最大そ 適変の で効と 果お る	切り で、 あ効 る果 的と ・お 適	概ね 、ね そら のと とも おい え	余検 地討 が改 善す る	適い全 切、く で非 あ効 あ効 る率 は 不

北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 検証シート

事業名	森吉山ウェルカムステーション事業	担当部課名
総合戦略 基本目標	基本目標1 産業振興による仕事づくり 1-④ 観光・レクリエーションの振興	総務部内陸線再生支援室
交付金 種別	地方創生整備交付金	
事業目的 (一覧表F列)	<p>○ 現在の県立公園から国定公園への昇格に関わる活動が地元北秋田市において具体化してきている現状も踏まえ、山を目的として来訪したお客様はもちろんのこと、以外の目的で訪ねてきたお客様、さらには北秋田市をはじめとする沿線地域のすべての住民に、森吉山の魅力や価値をワンストップで感じ取ってもらえる「森吉山エリアの四季」をテーマとした「情報発信型のスペース」を秋田内陸線阿仁合駅舎内2階に整備し、森吉山一帯の観光関連情報や来訪者が必要とする情報を発信することで、沿線の観光価値を高めるとともに地域の魅力向上を目指し、観光客増と地域の観光関連事業者の収入増を図ることを目的とする。</p>	

事業費	総事業費(入力シートD列)	交付金実績額(入力シートE列)
	90,322,180円	42,590,000円
KPI	指標及び目標値(入力シートG列)	実績値(一覧表H列)
	<p>○観光コンテンツの発信拡大に伴う株式会社WEBサイトアクセス数:852,141PV ○整備施設(阿仁合駅舎2階)訪問者数:79人/日 ○整備施設(阿仁合駅舎2階)チャレンジショップ活用事業者数(累計):54人・団体 ※目標値は令和4年度末時点のもの。</p>	<p>○観光コンテンツの発信拡大に伴う株式会社WEBサイトアクセス数:0PV ○整備施設(阿仁合駅舎2階)訪問者数:0人/日 ○整備施設(阿仁合駅舎2階)チャレンジショップ活用事業者数(累計):0人・団体 ※実績値は平成30年度。</p>

事業の概要(一覧表I列)	
<p>○ 森吉山の観光関連事業者が提供する様々なコンテンツを情報提供する。 ○ 内容は各個別事業者の取り扱いコンテンツの体験(購入)意欲の喚起に結びつくものとし、整備施設来訪者への提供のみならず会社の既存WEBサイト上での誘客コンテンツとしても活用する(多言語対応:英・台・韓・タイ)。 ○ 森吉山関連の中小零細事業者や地域活動団体等が訪問客に対し体験メニュー案内や特産品販売などを行う「チャレンジショップ」機能を設ける。 ○ 整備施設では、高齢者等インターネット環境にない方に対しても、ジオラマやパネルなどのアナログ的な方法で情報を提供する。</p>	

◆担当部署による自己分析(各項目5点満点、総計45点満点)

妥当性評価	14	有効性評価	14	効率性評価	15
市が関与すべき事業か	5	事業は効果的か	5	他に効率的な手法はないか	5
市民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	5	コスト削減の余地はないか	5
目的・対象は妥当か	5	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	5

総合評価	今後の方向性	事業の取組状況と今後の対応方針について(入力シートJ列)
43	現行のまま継続	阿仁合駅舎2階を改修し、エレベーター・冷暖房設備・LED照明の新設、階段の移設、床の防音対策と強度の増強、内壁の断熱機能の付加をするとともに、デジタルサイネージやジオラマ等を整備することで、地域の魅力発信スペースを新設。これにより沿線の観光価値を高め、活性化を図る。

----- 以下は検証会議で使用 -----

◆検証会議による客観的検証

妥当性評価		有効性評価		効率性評価	
市が関与すべき事業か		事業は効果的か		他に効率的な手法はないか	
市民のニーズは高いか		成果が期待できるか		コスト削減の余地はないか	
目的・対象は妥当か		政策目標の実現に貢献しているか		受益者負担は適当か	

【参考:評価基準】

総合評価	検証会議による評価	【検証会議 評価基準】
45		<p>A かなりの効果がある B 相当程度の効果がある C あまり効果が見られない D 効果が乏しく改善の必要ある</p>

5	4	3	2	1
的り全 、く 最大そ 適変の で効と 果お る	切り で、 あ効 る果 的と お 適	概ね ない ら と も い え	余検 地討 が改 善す る	適い全 切、く で非効 あ効う る率 は 不 な